# 完成した大区画ほ場と大型機械による効率化

～ 農事組合法人を核とした地域農業の発展を目指して ～

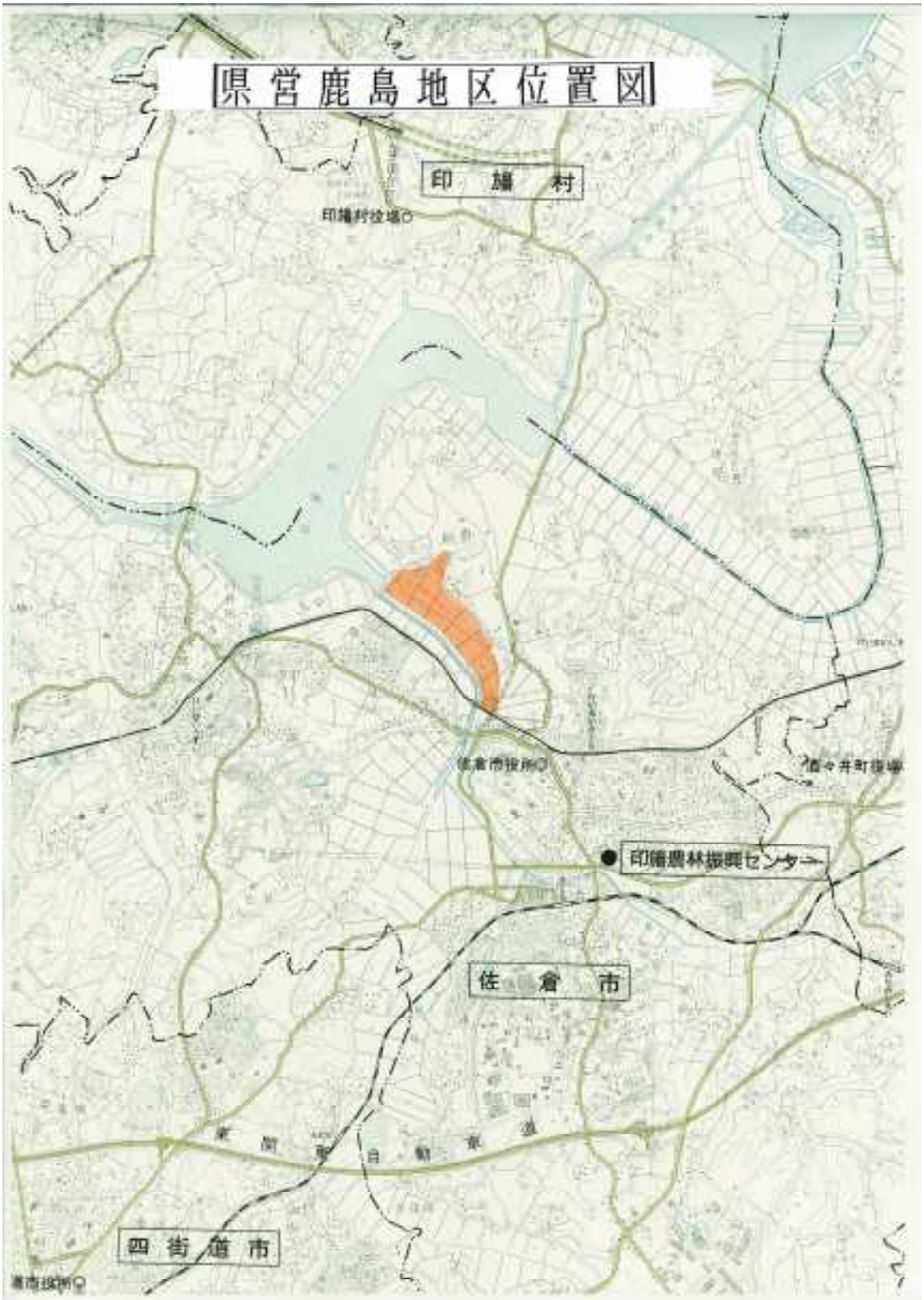
２００馬力のトラクターによる営農

県営ほ場整備事業（大区画）

鹿島地区（佐倉市）

印旛農林振興センター

# 県営鹿島地区位置図



## １　佐倉市の概要

佐倉市は、首都４０ｋｍ圏に位置し、千葉市へは２０ km、成田空港へは１５ km の距離にある。

北側は印旛沼、南・東・西側は北総台地に接しており、東西に１０ｋｍ、南北に１４ｋｍの広がりを持ち総面積１０３．５９ｋ㎡で城下町の歴史が残る市である。

交通は JR 総武本線・成田線の要衝であり、私鉄は京成電鉄が通っている。

道路は国道５１号線と東関東自動車道が横断し、鉄道沿線は大規模な都市住宅が開発されている。

地勢は、北総台地から１級河川の鹿島川、高崎川、手繰川が西印旛沼に向かって流下しており、準用河川の南部川が高崎川に合流している。

標高は、沼や河川沿の５ｍ～９ｍの水田地帯と２０ｍ～２８ｍの畑地帯と住宅地帯となっている。

気候は年平均１４．７℃、年間降水量は１，５３０ｍｍとなっている。（佐倉市八街市酒々井町消防組合資料）

農地面積は、３，０３０ ha で、うち田は１，７８０ ha、畑は１，２５０ ha となっている。（平成 19-20 年千葉県農林水産統計年報）

農家戸数は、１，５０４戸で、全世帯数のうち２．２％にあたるが、高齢化と後継者不足により年々減少傾向にある。農家の経営体は沼、各河川沿の水稲経営と台地での野菜経営、花卉・植木経営と幅広く、その経営規模は平均２ ha となっている。専兼別にみると、第２種兼業農家が６７．９％と大　　半を占め、以下専業が１９．８％、第１種兼業が１２．３％となっている。

（平成 19-20 年千葉県農林水産統計年報）。

農業産出額では（平成１８年度）５３億７千万円で内訳は米１５億９千万円、野菜類３０億６千万円で５７％をしめている。

主要な品目は、米・落花生・トマト・やまのいも・かんしょである。

## ２　導入された事業の概要

（１）県営ほ場整備事業（大区画）鹿島地区

鹿島地区は西印旛沼最南端で鹿島川最流末右岸に位置する低地帯で印旛沼干拓により造成された区域にあり、建設残土活用により印旛沼最高水位（YP ４．５ｍ）以上の YP ５．０ｍまで盛土造成された均平なほ場形態である。

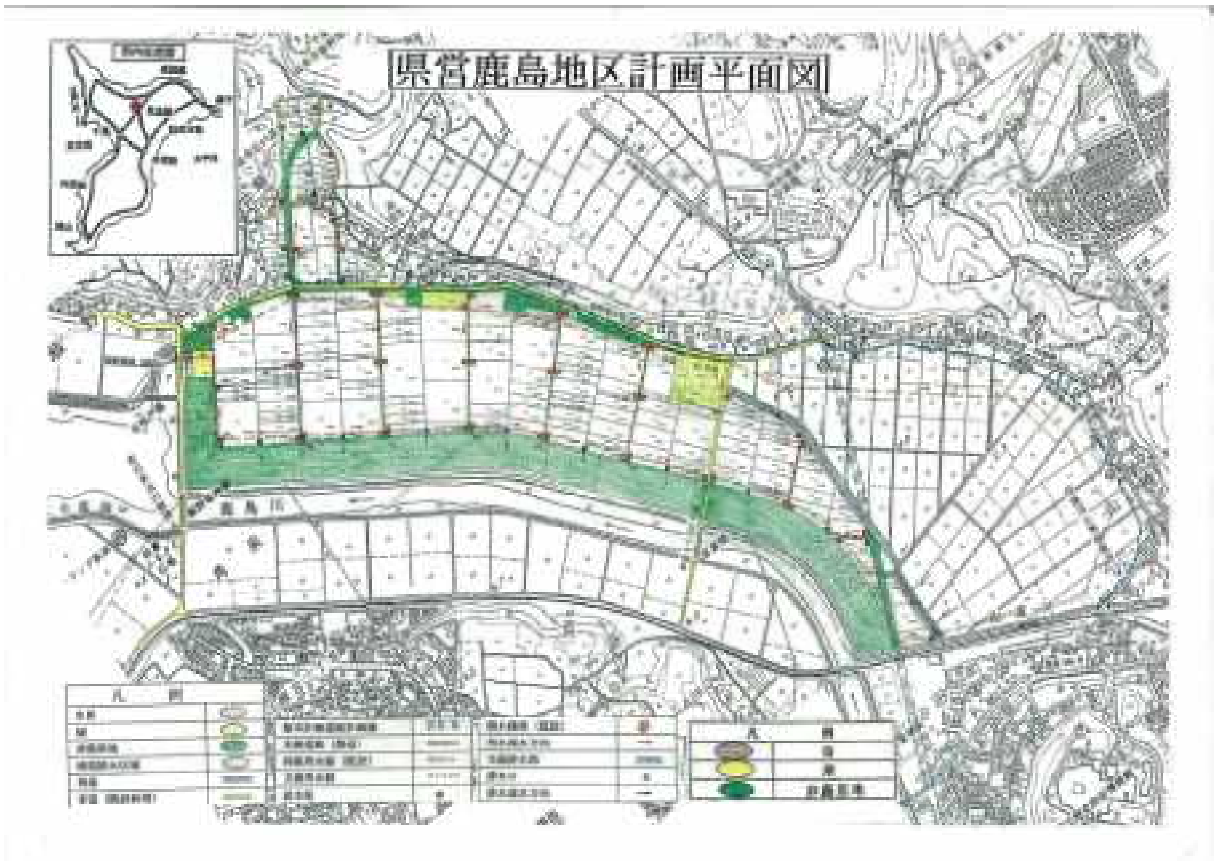
農地流動化による土地利用型大規模経営が可能な農地を形成し、

大型機械活用と併せた農業経営の合理化、産業としての農業の強化をめざすものである。

本地区の隣接した地区には、角来工区、臼井工区があり、当地域の土地改良におけるモデル事例となっていた。これらの経験を踏まえ事業が実施された。

・事 業 名　県営ほ場整備事業（大区画）
・採択年度　平成７年度
・受益面積　４８．１ha（水田４６．１ha、畑２．０ha）
・事業期間　平成７年度～平成１５年度
・事 業 費　５４７，３３０千円
　　（工事費　５１９，０００千円、事務費２８，３３０千円）
・事業内容

| | |
|---|---|
| 区画整理 | ４８．１ｈａ |
| 用水路工 | ２．０ｋｍ |
| 排水路工 | １．８ｋｍ |
| 道 路 工 | ３．９ｋｍ（B＝４．０ｍ） |
| 暗渠排水工 | ４６．１ｈａ |



施　工　前

施　工　後

## ３　事業の成果

（１）直接的な成果

事業により水田の大区画化、用排水管の地下埋設、自動給水栓の設置等工事を行った。

工区全域を均平とし、耕作道路を田面より２０ｃｍの高さとした結果どの場所からでも大型機械の進入が可能となった。

事業により乾田化が図られ大型機械の導入が可能となった他、水管理に要する時間、畦畔・水路等の除草作業が大幅に短縮され、水稲にかかる主な作業時間が１／４から１／７の低減されたことにより、全体で労働時間は約８割以上、機械の稼働時間は６割以上低減された。

作業時間比較　　（単位：　時間／ｈａ）

| | 計画時現況 | 農家　１ | 農家　２ |
|---|---|---|---|
| 労働所要時間 | ６７１．０ | ８６．９ | ８７．６ |
| 機械稼働時間 | ２０７．０ | ６４．８ | ８２．８ |

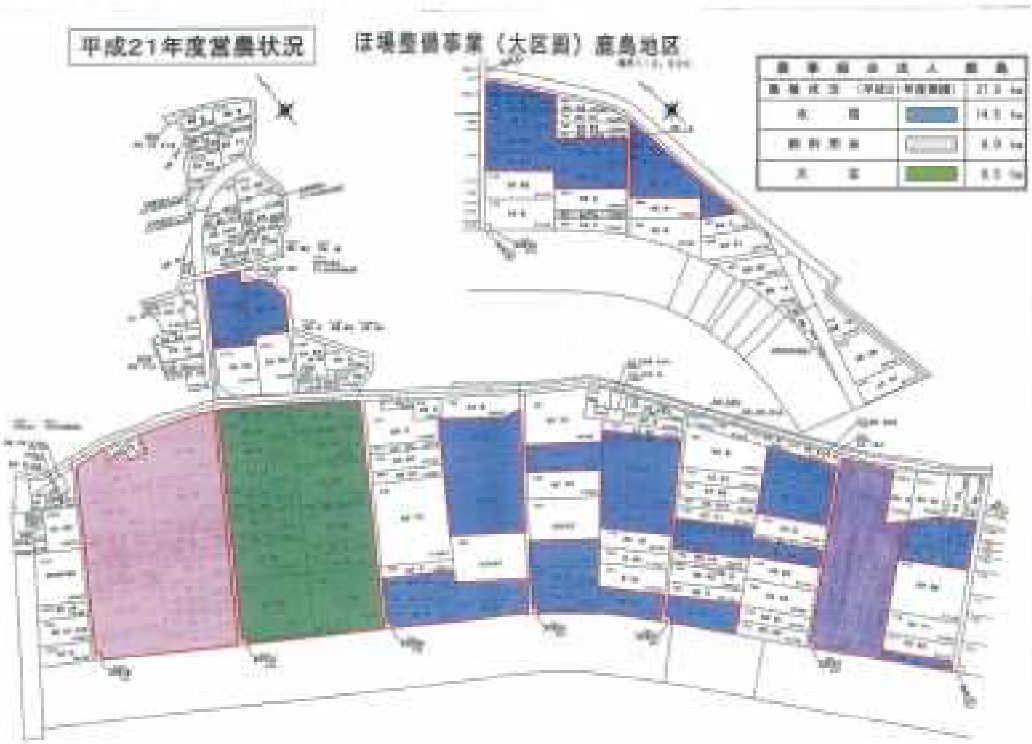
（２）営農組織の設立

本地は低コスト化農業の意識が比較的浸透していた地域で、将来起こりうる担い手の減少、米価の下落を早期の段階から予測し、低コスト農業を推進するため 事業着手にあわせ、専業農家を中心に農事組合法人を設立した。

平成　７年４月　農事組合法人 さくら水田産業鹿島　設立登記
平成　９年３年　役員の再編を行い
平成 10 年１月　農事組合法人鹿島に変更登記

組合員数　　５名
構 成 員　　６名　　（農家戸数　５戸、オペレーター　１名）
械設備等　トラクター　200ps　85ps　37ps　21ps　19ps
コンバイン　１台（５条）
田植機　　１台（８条）
乗用管理機　１台（薬剤散布）
大豆播種機　１台（８条）
乾燥施設　200 ㎡　　乾燥機８０石・２基
籾すり機　　５インチ

住場整備事業（大区画）鹿島地区
平成19年度営農状況


平成21年度営農状況
住場整備事業（大区画）鹿島地区

（３）利用集積

ほ場整備事業の一時利用指定時に作業委託希望、利用権設定等について依頼をし、自作希望者に対し、組合への理解を深めるよう根気よく説明し集積を図った。

**（４）営農状況**

地区においては水稲が主で、法人鹿島に於いては大型機械による飼料用米の乾田直播栽培　６ｈａ、大豆６．５ｈａの作付けを行っている。

また、小規模ながら季節販売の直売所を設置し、とうもろこし、枝豆の販売を行い好評を得ている他、イベント時の敷地利用で地域住民との交流も図っている。

なお、法人になったことにより各種資金の調達がしやすくなった。

## ４　今後の課題と改善方法

生産基盤の整備は整い、農地の利用集積率も事業後３５％程度から現在５６％と増えているが、大型農業機械のなお一層の効率化と転作作物の導入に向けて、バラ転作の解消を図るため団地化を目的とした農地の利用集積を促進する必要がある。

また、事業後１０年経っているので地盤が下がっている所もあり、集積が進まないと大型機械を有効に使えない。

また、地産地消に向けて農事組合法人が中心となって担い手を育成し、本地区内外を問わず生産物のブランド化と販売促進に向けた努力を期待したい。

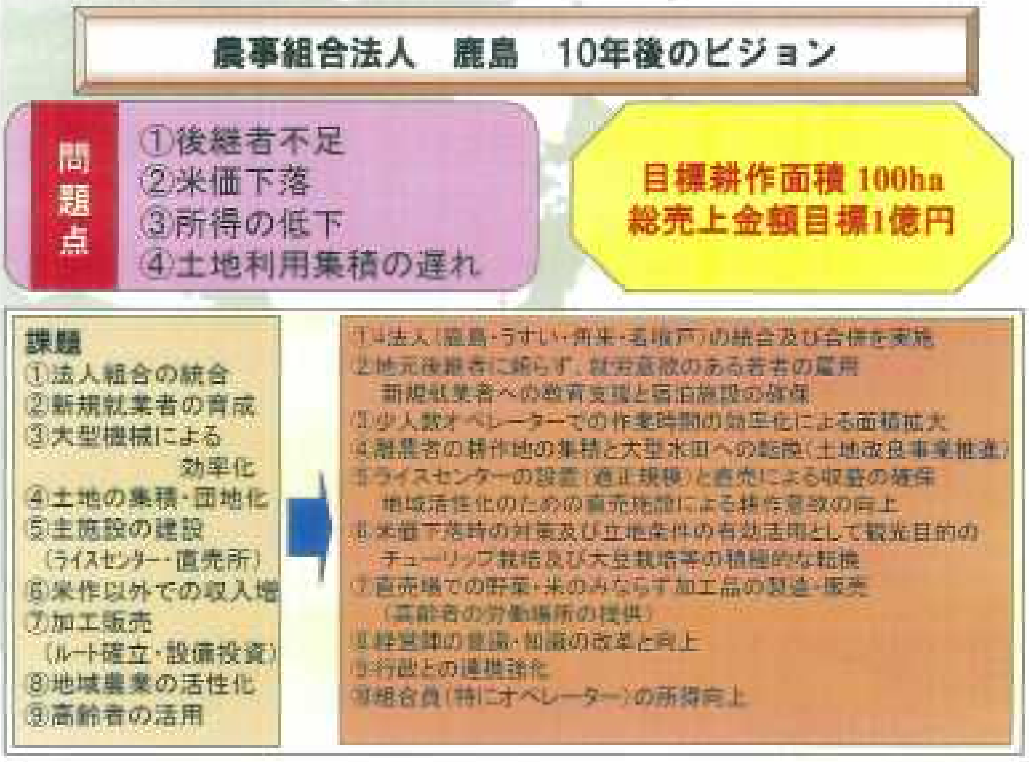
現在、農事組合法人鹿島は当地区を中心に「ちばエコ」農産物の生産に取り組み、減農薬・減化学肥料による米づくりを行い、約１３ ha の認証を受けている。

これらを起爆剤として環境にやさしい佐倉のお米として、ブランド化を進めている。

今後、鹿島地区に止まらず規模拡大を考え、就労意欲のある若者の雇用、規模拡大と作業時間の効率化、直売及び加工品の製造販売等で地域農業の活性化を図るなど農事組合法人 鹿島 の１０年後のビジョンを目標に活動している。

自脱型コンバインによる水稲の収穫

大豆の集団転作




## ５　その他

（１）調査協力機関

ア、佐倉市農政課

イ、印旛沼土地改良区

ウ、農事組合法人「鹿島」

（２）参考図書

ア、農業センサス　２００５

イ、千葉農林水産統計年報 平成１９年～２０年 2007 ～ 2008

ウ、千葉県生産農業所得統計（昭和 55 年～平成 19 年）　21 年 3 月